

不登校生徒の進学先の確保について

近年、不登校児童生徒数は増加傾向にあり、中学校卒業後の進路や学びの継続をどのように支えていくかが重要な課題となっている。こうした状況を踏まえ、不登校生徒が卒業後も地域の中で安心して学び続け、社会的自立につなげることができる環境を確保することについて検討しているので、その内容を報告する。

1 不登校生徒の進学状況

(1) 種別

年度	高等学校 全日制	高等学校 定時制	通信制	高等専門 学校	専修・専 門学校等	未定	合計
令和7年度	18	17	43	0	0	4	82
令和6年度	21	12	47	0	2	6	88
令和5年度	16	18	51	0	1	4	90

傾向：過去3年間、半数以上の生徒が通信制へ進学しており、最も多い進学先となっている。

(2) 地域別

年度	東京都内		近隣	近隣以外	未定	合計
	区内	区外				
令和7年度	21	52	3	2	4	82
令和6年度	12	66	1	3	6	88
令和5年度	6	77	1	2	4	90

傾向：令和5年度に6人であった区内進学者数は、令和7年度には21人となり、3年間で3.5倍となっている。

(3) 不登校生徒が進学した東京都内の主な進学先と人数（令和5～7年度）

	都立高校（85人）	私立高校【通信制】（140人） ※東京都内の主な通学キャンパス
区内	稔ヶ丘高等学校（17人） 中野工科高等学校（8人）	フェリーチェ高等学院（14人）
区外	荻窪高等学校（11人） 新宿山吹高等学校（6人） 六本木高等学校（6人） 世田谷泉高等学校（5人） 練馬工科高等学校（4人） など	明聖高等学校（22人）※高円寺 N・S・R高等学校（15人）※代々木 クラーク記念国際高等学校（12人） ※高田馬場 飛鳥未来高等学校（11人）※池袋 ルネサンス高等学校（8人）※代々木 東京文理学院高等部（6人）※高田馬場 おおぞら高校（5人）※高田馬場 NHK学園高等学校（5人）※国立 代々木高等学院（4人）※代々木 大智学園高等学校（4人）※高田馬場 日本航空高等学校（3人）※目黒 レコールバンタン高等部（3人）※恵比寿 など

傾向：区内の都立及び私立高校に39人が進学している。また、区外についても、近隣の杉並区、練馬区、新宿区、豊島区の都立及び私立高校に108人が進学している。

2 不登校生徒にとって区内の高校に進学するメリット

(1) 安心して通学できる環境

住み慣れた地域に学びの場があることは、不登校生徒が安心して新たな一歩を踏み出すための重要な要素である。通学負担の軽減や登校への心理的ハードルの低下が図られるとともに、生活リズムの安定や継続的な通学につながることを期待される。

(2) 支援の継続性

区内に学びの場があることで、区立中学校、教育相談機関、スクールソーシャルワーカー、福祉機関等との連携が図りやすくなる。その結果、義務教育段階で構築した支援体制を中学校卒業後にも円滑に引き継ぐことが可能となり、切れ目のない継続的な支援につながることを期待できる。

(3) 地域との交流・協働の創出

区内の高校に在籍する高校生が町内会の運営する地域の活動に参加したり、近隣の小・中学校や教育支援室等でボランティア活動を行ったりするなど、地域とのつながりを生かした教育活動が可能となる。高校生の自己有用感や社会性の育成につながるとともに、地域全体で子どもたちの学びと成長を支える環境づくりにも寄与することができる。

3 区内の高校に進学した不登校生徒の声

通学に関する こと	・ 住み慣れた地域の高校なので、不安が少なく通い始めることができます。 ・ 通学時間が短く、自分のペースで学校生活に慣れることができます。
支援に関する こと	・ 中学校で支えてくれた先生や相談員と相談しやすいので心強いです。 ・ 自分のことを知ってくれている人が近くにいることで、安心して高校生活を始められます。
地域とのつな がりに関する こと	・ 友達や地域とのつながりを大切にしながら高校生活を送ることができます。 ・ 地元で少しずつ自信を取り戻しながら、新しいことにも挑戦できそうです。

4 今後の検討課題

(1) 中学校卒業後の支援について

不登校生徒の中には、高校進学に当たり、新たな環境への適応や通学負担、対人関係への不安などの課題を抱える生徒がいる。現在も区長部局の相談・福祉機関において進学後の不登校生徒に対して継続的に支援を行う体制を整えているところであるが、更なる連携体制の充実を図る必要がある。

(2) 義務教育段階への継続的な関りについて

現在、区内の都立・私立高校においては、地域や区立小・中学校、フリーステップルームと連携し、高校生によるボランティア活動を行っている。また、区立小・中学校やフリーステップルーム、教育相談室等と連携しながら、不登校児童・生徒の学びや居場所づくりを支えている。こうした連携を更に充実させることで、中学校卒業後の進路選択や高校生活への円滑な移行につなげていきたい。

(3) 区内における多様な進学先の確保について

生徒や保護者にとって、身近な進学先があることは重要であり、今後も区内において一人ひとりの状況や学び方、生活スタイル等に応じた多様な進学先を確保する必要がある。そのため、区内関連部署と連携し、地域の中で安心して学び続けることのできる環境を維持・充実していくことを検討する。